早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	伊藤和哉（いとうかずや）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年　9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	地域活性学会第 14 回研究大会（横浜・三浦半島）
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	伊藤和哉，タペノワ グルデン，ベイセンバイ ゼレ，黒澤栄則， アンダソヴァ マラル，齋藤 篤，浅田 匡，扇原 淳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	日本とカザフスタンの学生の協働による ICT を活用した地域課題解決策の提案

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【プログラム内容】国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）さくらサイエンスプログラムの助成を受け，早稲田大学とカザフスタン共和国アブライ・ハン名称カザフ国際関係外国語大学とのオンライン国際交流プログラムを実施した．本プログラムは，2021 年 10 月 11 日から 18 日の期間で実施した．参加者は日本の学生が 14 人，カザフスタンの学生が 18 人であった．参加者は混成し 3 グループに分け，「皆野町の観光活性化と ICT」，「皆野町の教育活性化と ICT」，「皆野町の産業活性化・住民定着と ICT」を課題として割り当て，皆野町の地域課題を解決するための提案を行った．

【グループ提案】皆野町の観光活性化と ICT：観光客を増やし，皆野町の認知度を上げることを目的とした，ガイドツアーを提案した．ガイドは学生によるボランティアを活用し，コースは皆野町の観光地を巡る 2 つのコースを考案した．本ツアーでは電子スタンプラリーを活用し，景品として皆野町の特産品を受け取ることができるプログラムにより他との差別化を図った．皆野町の教育活性化と ICT：安心かつ多様な学びを可能とするべく，オンラインと対面のハイブリッド制授業を提案した．オンライン授業では，自宅学習可能な環境，心理的サポート，魅力的なカリキュラムを作成し，対面授業では皆野町の特徴を活かした自然体験学習などを盛り込み，他校と差別化を図った．皆野町と産業活性化・住民定着と ICT：皆野町では若年層の転出が課題となっていた．転入増を実現している地域はブランディングと移住支援に力を入れていることから，皆野町の移住支援サイトの改善案を作成した．作成にあたっては既存のサイトを分析し，改善案としてデザインの工夫，多言語への対応，FAQ の記載，移住の流れが分かるコンテンツの作成を行った．

【まとめ】本プログラムは，皆野町をフィールドとすることで，皆野町の有する課題に対して，ICT 技術の活用だけでなく，行政や教育機関，地域住民などの様々なステークホルダー間の調整に基づく地域課題解決策が提案された．また近年，町の活性化を図るために，町にルーツを持つ多様な人材をはじめとした関係人口による地域づくりが期待されており，本プログラムも関係人口の創出に成功したと考えられた．成果報告においては、今後の施策の参考にさせていただきたい旨講評を頂いたが，どのように政策立案に反映するかが課題である．

https://www.chiiki-kassei.com/img/files/taikai/taikai14/yokousyu2022.pdf

※無断転載禁止